

<参考>

○中学校の観点別評価基準の例（別紙）

○観点別学習状況及び評定の記入方法について

【小学校児童指導要録】

[各教科の学習の記録]

I 観点別学習状況：

新学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し、次のように区別して記入する。

- | | |
|-----------------------|-----|
| 「十分満足できる」状況と判断されるもの | ： A |
| 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの | ： B |
| 「努力を要する」状況と判断されるもの | ： C |

II 評定（第3学年以上）：

新学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し、次のように区別して記入する。

- | | |
|-----------------------|-----|
| 「十分満足できる」状況と判断されるもの | ： 3 |
| 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの | ： 2 |
| 「努力を要する」状況と判断されるもの | ： 1 |

(外国語活動について)

改善通知¹では、評価の観点を記入した上で、それらの観点到照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述することが示されている。

【中学校生徒指導要録】

[各教科の学習の記録]

I 観点別学習状況：（小学校児童指導要領と同様。）

II 評定：

新学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し、次のように区別して記入する。

- | | |
|----------------------------------|-----|
| 「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの | ： 5 |
| 「十分満足できる」状況と判断されるもの | ： 4 |
| 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの | ： 3 |
| 「努力を要する」状況と判断されるもの | ： 2 |
| 「一層努力を要する」状況と判断されるもの | ： 1 |

¹ 平成22年5月11日「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」【文部科学省初等中等局長】

【高等学校生徒指導要録】

[各教科・科目の学習の記録]

中学校生徒指導要録と同様。なお、高等学校では、学習指導要領の第2章以下に示していない事項を加えて指導することができることや、特に必要がある場合には、第2章及び第3章に示す教科及び科目の目標の趣旨を損なわない範囲内で、各教科・科目の内容に関する事項について、基礎的・基本的な事項に重点を置くなどその内容を適切に選択して指導することができる。

このため、高等学校では、「学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき、学校が地域や生徒の実態に即して定めた当該教科・科目の目標や内容に照らしてその実現状況を評価する」ことになっており、各学校ではこの点も十分踏まえ、第2編や各教育委員会が作成した学習評価関係資料を参考にしつつ、適切な評価規準を設定することが期待される。

中学校の観点別評価規準の例

ア 「聞くこと」

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
<p>【言語活動への取組】 「聞くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相づちをうったりメモをとったりするなど、相手の話に関心をもって聞いている。 ・ 聞いたことについて簡単な言葉や動作などに反応している。 <p>【コミュニケーションの継続】 様々な工夫をして、聞き続けようとしている。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手に聞き返すなどして、言われたことを確認しながら聞き続けている。 	/	<p>【正確な聞き取り】 英語で話されたり読まれたりする内容を正しく聞き取ることができる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 語句や表現、文法事項などの知識を活用して短い英語の内容を正しく聞き取ることができる。 <p>【適切な聞き取り】 場面や状況に応じて英語を適切に聞いて理解することができる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話されている内容から話し手の意向を理解することができる。 ・ まとまりのある英語を聞いて、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。 	<p>【言語についての知識】 発音の違いや音変化に関する知識を身に付けている。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発音の違いや音変化に関する知識を身に付けている。 ・ 基本的な強勢やイントネーションなどの違いを理解している。 <p>【文化についての理解】 言語の背景にある文化について理解している。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣など、「聞くこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。

イ 「話すこと」

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
<p>【言語活動への取組】 「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 間違えることを恐れず積極的に自分の考えなどを話している。 ・ 聞き手が理解しやすくなるように工夫して話している。 <p>【コミュニケーションの継続】 様々な工夫をして、話し続けようとしている。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つなぎ言葉を用いるなどして話を続けている。 ・ 身振り手振り、知っている語句や表現をうまく利用して自分の考えなどを話している。 	<p>【正確な発話】 自分の考えや気持ち、事実などを英語で正しく話すことができる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 語句や表現、文法事項などの知識を活用して正しく話すことができる。 <p>【適切な発話】 場面や状況に応じて英語で適切に話すことができる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。 ・ 与えられたテーマについて、自分の意見や主張をまとまりよく話すことができる。 	/	<p>【言語についての知識】 英語やその運用についての知識を身に付けている。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な強勢の違いを理解している。 ・ 話を続けるために必要なつなぎ言葉や相づちをうつつ表現などを知っている。 <p>【文化についての理解】 言語の背景にある文化について理解している。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣など、「話すこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。

ウ「読むこと」

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
<p>【言語活動への取組】 「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読んだことについて、メモをとったり簡単な言葉や動作などで反応したりしている。 ・ 辞書を活用して読んでいる。 <p>【コミュニケーションの継続】 様々な工夫をして、読み続けようとしている。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返して読んだり、読み返したりして読み続けている。 	<p>【正確な音読】 英語を正しく音読することができる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読することができる。 <p>【適切な音読】 英語で書かれた内容が表現されるように適切に音読することができる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意味内容にふさわしく音読することができる。 ・ 適切な声量や明瞭さで音読することができる。 	<p>【正確な読み取り】 英語で書かれた内容を正しく読み取ることができる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を正しく読み取ることができる。 <p>【適切な読み取り】 目的に応じて英語を適切に読んで理解することができる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あらすじや大切な部分などを読み取ることができる。 ・ 書かれた内容から書き手の意向を読み取ることができる。 ・ 伝言や手紙などを読んで、その内容に合わせて適切に応じることができる。 	<p>【言語についての知識】 英語やその運用についての知識を身に付けている。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な強勢やイントネーションなどの違いを理解している。 ・ 語句や文、文法などに関する知識を身に付けている。 <p>【文化についての理解】 言語の背景にある文化について理解している。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣など、「読むこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。

エ「書くこと」

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
<p>【言語活動への取組】 「書くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読み手が理解しやすくなるように書いたり、書き直したりしている。 <p>【コミュニケーションの継続】 様々な工夫をして、書き続けようとしている。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ うまく書けないところがあっても知っている語句や表現を用いて書き続けている。 	<p>【正確な筆記】 自分の考えや気持ちなどを英語で正しく書くことができる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 語句や表現、文法事項などの知識を活用して正しく書くことができる。 <p>【適切な筆記】 目的に応じて英語で適切に書くことができる。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場面や状況にふさわしい表現を用いて書くことができる。 ・ 内容的にまとまりのある文章を書くことができる。 		<p>【言語についての知識】 英語やその運用についての知識を身に付けている。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文構造や語法、文法などに関する知識を身に付けている。 ・ 正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身に付けている。 <p>【文化についての理解】 言語の背景にある文化について理解している。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣など、「書くこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。

(参考) 平成 23 年 11 月 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

観点別学習状況の評価と「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標との関係

学習到達目標

各学校において、「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標を設定することにより、これを観点別学習状況の評価における「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」の観点の評価に生かすことが期待される。

「英語を使って何ができるようになるか」という観点から「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標を具体的に記述（設定した目標に即して指導及び評価）

観点別評価

指導と評価の一体化を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが趣旨

コミュニケーション
への
関心・意欲・態度

外国語表現
の能力

外国語理解
の能力

言語や文化
についての
知識・理解

観点別学習状況の評価においては、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」及び「言語や文化についての知識・理解」の観点と併せて、学習指導要領に示す外国語科の目標に照らして、その実現状況の評価を着実に実施することが必要

CAN-DOリスト形式の目標は、観点別学習状況の評価のうち、「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」の評価について活用するのに適していると考えられる。その際、学習到達目標に対応した学習活動の特質等に応じて、多肢選択形式等の筆記テストのみならず、面接、エッセー、スピーチ等のパフォーマンス評価、活動の観察等、様々な評価方法の中からその場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択することが重要である。

なお、観点別学習状況の評価においては、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」及び「言語や文化についての知識・理解」の観点を併せて評価することとなる。

出典：『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』から作成

（参考）観点別学習状況の評価における外国語科の評価の観点

基本4観点

○関心・意欲・態度

各教科の学習に即した関心や意欲、学習への態度等を対象としたもの

○思考・判断・表現

「表現」については、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容に即して考えたり、判断したりしたことを、児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味している。
つまり「表現」とは、(略)思考・判断した課程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としている。

○技能

「技能・表現」については、例えば社会科では資料から情報を収集・選択して、読み取ったりする「技能」と、それらを用いて図表や作品などにまとめたりする際の「表現」とをまとめて「技能・表現」として評価してきた。
今回の改訂で設定された「技能」については、これまで「技能・表現」として評価されていた「表現」をも含む観点として設定されることとなった。

○知識・理解

各教科において習得した知識や重要な概念を理解しているかどうかを内容としたもの

外国語科における4観点

○コミュニケーションへの関心・意欲・態度

コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。

○外国語表現の能力

外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。

○外国語理解の能力

外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。

○言語や文化についての知識・理解

外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

出典：評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(中学校 外国語)から作成

教科名	学年	時数	教科の目標				
外国語 (英語)	3	140	○外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。 ○積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。 ○聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。				
小中一貫教育に関わっての目標		○積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童・生徒の育成 ～「活用」を意識した小中交流授業の創造～					
言語活動の充実		○「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域にわたり、実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの学習活動や、文法事項等の言語材料について理解したり練習したりする学習活動を充実する。					
評価の観点		観点の趣旨		評価資料			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度		コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。		・活動の観察			
外国語表現の能力		外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。		・定期試験、実力試験 ・単元、小テスト ・インタビュー、スピーチテスト			
外国語理解の能力		外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。		・定期試験、実力試験 ・単元、小テスト ・インタビューテスト			
言語や文化についての知識・理解		外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。		・定期試験、実力試験 ・単元、小テスト			
指導計画							
月	項	学習内容	時数	目標	評価の観点	評価規準	
4	Lesson 1	1 My Favorite Words ・内容が伝わるようにスピーチ原稿を音読する。 ・自分の好きなことやものについて適切にスピーチする。 ◎5・9交流授業 ・自己紹介。 ☆Hi, friends ○定期試験 ○スピーキングテスト C-S	10	○ことばの持つ力について関心を高める。 ○受け身形を理解し、使う（復習）。 ○自分の好きなことばについてスピーチをする。 ○道案内する。 ○ Could you tell me ... ?を理解し、使う。	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	○間違うことを恐れず積極的にスピーチしている。	
					外国語表現の能力		○あらかじめ話すことをメモなどで準備すれば、与えられたテーマについて（身近な人や物について）、大切なことを分かりやすく順序よくスピーチすることができる。
					言語や文化についての知識・理解	○受け身形に関する知識を身に付けている。	
5	Lesson 2	2 Finland - Living with Forests ・紹介記事を読んだり、インタビューを聞く。 ・好きな人物、あこがれの人物について、友達にインタビューする。 C-R	14	○異なる自然、異なる文化に生きる人々の生活を知る。 ○現在完了形（継続用法）を理解し、使う。 ○長く続けていることをたずね合い、レポートする。 ○人に病状についてたずねたり、説明する。	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	○間違うことを恐れず積極的にインタビューしている。	
					外国語理解の能力		○習った表現を用いて書かれていれば、意見文に対して、日本語で感想を述べたり賛否やその意見を示したりすることができる。
					言語や文化についての知識・理解		○現在完了形（継続用法）に関する知識を身に付けている。
6	Lesson 3	3 Rakugo Goes Overseas ・紹介記事を読んだ	15	○日本の伝統文化およびそれを世界に発信することに関心を高め	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	○間違うことを恐れず積極的にインタビューしている。	

外国語

シラバス

科目： コミュ基礎 ： コミュ I	単位数： 1 単位 単位数： 4 単位	学科： 普通科	学年・学級： 第 1 学年 1 組 ～ 6 組
----------------------	------------------------	---------	-------------------------

1. 学習の到達目標

旭川北高校 1年生での 到達目標	1. 教師が授業中に話す英語の90%以上が理解できる。 2. 英語を日本語の訳として理解するのではなく、自分が理解できる部分から残りの部分を推測 (inferring) しなが、話されたり書かれたりしている英語を理解できる。 3. 授業の中で積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする。 4. 自分の考えや情報をわかりやすい英語で書ける。
使用教科書	JOYFUL English (コミュニケーション英語基礎) [三友社] ・ Discovery English Communication I (コミュニケーション英語 I) [開隆堂出版]

2. 指導計画及び評価規準・方法等

学 期	月	単元・内容	学習内容 (目標)	テスト・ 評価のための観察	評 価 規 準						
					コミュニケーションへ の関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化に関する 知識・理解			
前 期	4	(コミュニケーション英語基礎)	○ hobby、 dream、 favorite pop singer 等のキ ーワードを 用いて英語で 自己紹介がで きる。	【英作文テスト】 途中で途切れて いる物語の続き を、自分で創造 して完結する。 (条件) 関係代名 詞をできるだけ 多く用いる。 【前期中間考査】 ◎これまでの指導 内容における生 徒の理解度・定 着度を把握する 問題の作成 ◎指導内容・指導 方法の検証及び 改善 (「指導と 評価の一体化」) 【 3-minute Skit Performance Test 】 (*これまでの指 導内容における 生徒の理解度・ 定着度を見るた めの skit performance test) 外国人に対し、 食べたことのない料理の食べ方 を英語で教える。 (条件) ①関係代 名詞を用いる。 ② linking を用 いる。 ③ユーモラスな 内容とする。 【前期期末考査】 *前期中間考査 と同じ	○教師との interaction や、 生徒同士の pair work 活動 等で積極的にコ ミュニケーショ ンを図ろうとし ている。 相手の言うこと が分からない 時に聞き返したり、ゆっくり話 すよう求めたり している。						
		Lesson 1	○関係代名詞を 用いた文の 基本構造を理 解できる。						◎関係代名詞を用 いて、まと まった内容の 英文を書ける。	○関係代名詞を用 いて、まと まった内容の 英文を書ける。	○関係代名詞の用法 を正しく理解して いる。関係代名詞 のある名詞節が文 の主部となっている 時、どこまでが 主部であるかを見 分けることができ る。
		Lesson 2									
		Lesson 3									
	Lesson 4										
	5	Lesson 5	○正しい発音・ イントネーシ ョンで音読す ることができる。			◎これまでの指導 内容における生 徒の理解度・定 着度を把握する 問題の作成 ◎指導内容・指導 方法の検証及び 改善 (「指導と 評価の一体化」)	○内容が理解でき た部分を正しく 音読できる。 3つのパラグラ フを読んで発音 ・イントネーシ ョンの違いが 3箇所以内であ る。 linking が正し く行われている。	○英文を自然なイン トネーションで読 むための linking を理解している。 linking される箇 所を指摘できる。			
		Lesson 6									
		Lesson 7									
	6	(コミュニケーション英語 I)	○相手の理解度 を確かめなが ら、英語で物 事を説明でき る。			◎これまでの指導 内容における生 徒の理解度・定 着度を見るた めの skit performance test)	○ Skit Performance に おいて既習の英 語表現を積極的 に用いて、必要 とされる情報を 伝えることがで きる。 Supplementary Handout 中の表 現を 5 つ以上用 いている。				
		Lesson 1									
	7	Lesson 2	○相手の理解度 を確かめなが ら、英語で物 事を説明でき る。			◎これまでの指導 内容における生 徒の理解度・定 着度を見るた めの skit performance test)	○ Skit Performance に おいて既習の英 語表現を積極的 に用いて、必要 とされる情報を 伝えることがで きる。 Supplementary Handout 中の表 現を 5 つ以上用 いている。				
		Lesson 3									
8	9	Lesson 4	○相手の理解度 を確かめなが ら、英語で物 事を説明でき る。	◎これまでの指導 内容における生 徒の理解度・定 着度を見るた めの skit performance test)	○ Skit Performance に おいて既習の英 語表現を積極的 に用いて、必要 とされる情報を 伝えることがで きる。 Supplementary Handout 中の表 現を 5 つ以上用 いている。						
		Lesson 5									

学 期	月	単元・内容	学習内容 (目標)	テスト・ 評価のための観察	評 価 規 準						
					コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化に関する 知識・理解			
後 期	10	Lesson 6	○伝えたい情報や自分の考えを比較的簡単な表現を用いて相手に伝えることができる。	【presentation】 投げ込み教材 "子供にとって望ましい生育環境は田舎か都会か"を簡単な英語で発表させる。そして、その内容について英語で質疑応答を行う。 *ここでの指導は、将来のディベートに向けた基礎訓練なので評価の対象とはしない。	○コミュニケーションへの関心・意欲・態度	○外国語表現の能力 ○簡単な英語を用いて必要とされる情報を伝えることができる。	○外国語理解の能力 ○相手の質問を理解し、わかりやすく答えることができる。	○言語や文化に関する知識・理解			
		Lesson 7									
	11	Lesson 8	○ひとつのテーマについて英語で話し合うことができる。 (*ディベートに向けての準備段階としての位置づけ)	【後期中間考査】 *前期考査と同じ							
	12	Lesson 9	○仮定法を用いた文章の基本構造を理解できる。 ○仮定法を用いて会話ができる。	【3-minute pair-work Skit Performance】 スキットの状況設定は自由。 (条件) ①できるだけ多く「仮定法」表現を用いる。 ②ユーモアのある内容					○教師との interaction や生徒同士の pair work 活動等で積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。言葉に詰まった時に別の表現に言い換えたりして、コミュニケーションを続けようとしている。	○仮定法を用いて自分の願望、後悔の気持ちを英語で表現できる。教師との interaction の中で、自分の気持ちを仮定法を使って間接的に表現できる。	○仮定法の基本構造・用法を正しく理解している。相手が仮定法の表現に込めている思い、願いを理解している。
	1	Lesson 10									
	2	投げ込み教材 1	○まとまりのある文を読み、内容を理解することができる。	【学年末考査】 *これまでと同じ					○現代の若者の間で利用が増えている speed dating (パートナー探しをサポートするサービス) について書かれた英文を読み、本文中とは異なる表現を使った質問に答えることができる。		
3	投げ込み教材 2			○様々な「依存症」患者の生活習慣を正しく読み取っている。依存症患者を救い出す具体的な手立てを提案できる。							

◎ 「文法」の扱いについて

シラバス上ではコミュニケーション英語基礎 Lesson7、コミュニケーション英語 I Lesson 8 で「関係代名詞」「仮定法」を指導及び評価の対象としている。それ以外の文法項目に関しては、それぞれの課で生徒に配布される Supplementary Handout 中で扱い、communicative な活動を通して、その定着を図っている。

授業の中で文法を体系的に教えることはせず、そこで扱われている用法に主に焦点を当て、その文法表現を生徒が使いこなすことを目的とした指導を心がけている。(詳しくは本校ホームページ上の Supplementary Handout 及び Teaching Procedure をご覧ください。)

◎ シラバス上の「空白」について

「空白」は、その項目の指導が行われていないことを意味するのではなく、その課の重点指導項目となっていないことを意味する。

観点別評価マトリックス表

学 年	2 年		教科(科目)	コミュニケーション英語Ⅱ	
評価の場面	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力(話すこと・書くこと)	外国語理解の能力(読むこと・聞くこと)	言語や文化についての知識・理解	割合
定期試験		○	○	○	60
学力・単元テスト		○	○	○	15
パフォーマンスタスク	○	○	○		12
授業時の取組み(ペア/グループワーク等)	○				3
課 題		○	○	○	5
小テスト				○	5
割合	15 程度	30 程度	30 程度	25 程度	100
備考					

学 年	2 年		教科(科目)	英語表現Ⅱ	
評価の場面	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力(話すこと・書くこと)	外国語理解の能力(読むこと・聞くこと)	言語や文化についての知識・理解	割合
定期試験		○	○	○	60
学力・単元テスト		○	○	○	10
パフォーマンスタスク	○	○	○		17
授業時の取組み(ペア/グループワーク等)	○				3
課 題		○	○	○	5
小テスト				○	5
割合	20 程度	40 程度	20 程度	20 程度	100
備考					

学年	2年	コース	全コース	単位数	4単位
科目名	コミュニケーション英語Ⅱ		担当者		
教科書	WORLD TREK English Communication II (桐原書店)	副教材	WORLD TREK予習ノート・WORLD TREKワークブック		
学習到達及び【キャリア教育】の目標	<p>英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりすることができる。具体的には以下の言語活動ができる。【自己理解・自己管理能力】【課題対応能力】</p> <p>ア) 事物に関する紹介や対話を聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。</p> <p>イ) 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。また、聞き手に伝わるように音読できる。</p> <p>ウ) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換ができる。</p> <p>エ) 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く</p>				
評価の観点	<p>●コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。</p> <p>●外国語表現の能力：話すこと・書くこと 英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。</p> <p>●外国語理解の能力：聞くこと・読むこと 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。</p> <p>●言語や文化についての知識・理解 英語やその運用についての知識を身につけているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。</p>				
評価方法	定期試験 60% / 日常の学習活動 40% : ①学カテスト・②単元テスト・③小テスト・④授業時の活動参加(発言・ペアorグループワーク・発表等)				

学期	単元名	学習目標・評価規準	評価方法
前期 (4月～9月)	Lesson 4 What if ...? (第1回定期試験 6月2日)	<p>Can-do リスト【話すこと】Grade 4: 身近で馴染みのある話題や物事についてのAREAに基づいた簡単なスピーチを、キーワードやメモをたよりに行うことができる。具体的には、2050年に甲府昭和高校がどんな風になっているのかについて、自分の考えをまとめて発表したり、その場で質問に答えたりすることができる。</p> <p>題材: 科学 / 形式: 説明文 / 内容: 「もし～だったら・・・」空想によってもたらされた偉大な発明がある一方、空想の域をでないことも・・・でも空想は、私たちの生活をより楽しく豊かなものにしてくれる。</p> <p>文法: wish+仮定法・仮定法過去完了・if節を使わない仮定法</p>	①②③④ 定期試験
	Lesson 2 Dear Juliet (第2回定期試験 9月16日)	<p>Can-do リスト【書くこと】Grade 4: 身近で馴染みがあり、賛否を論じやすい話題についての自分の意見や考えを、AREAに基づいて10文程度の文章で書くことができる。具体的には、友人のブログに書かれているちょっとした悩みや相談ごとに対して、アドバイスや意見を書くことができる。</p> <p>題材: 心理・手紙 / 形式: 報告文 / 内容: 「ジュリエットクラブ」の活動を通して、悩みを打ち明ける人々や質問に答える人々の心理を知る。</p> <p>文法: 現在完了進行形・現在完了形の受け身・to have 過去分詞《不定詞の完了形》</p>	①②③④ 定期試験
	Lesson 1 Young People, Be Ambitious! (9月16日)	<p>Can-do リスト【読むこと】Grade 4: 平易に書かれた説明文や物語を読んで、その内容を理解することができる。具体的には、本文とは別の関連した文を読み、登場人物の言動やその言動の理由等を捉えながら読むことができる。</p> <p>題材: 夢 / 形式: エッセイ / 内容: 日本代表ゴールキーパー川島永嗣さんに、欧州サッカーリーグへの移籍を決断させたのは何だったのでしょうか。6カ国語を操ることもできる川島さんが思い描く夢とは。</p> <p>文法: S+V+O(=it)+C+to do 《形式目的語》・S+V(=知覚動詞)+O+C(=原形)・S+V+O+C(=過去分詞)</p>	①②③④ 定期試験
後期 (12月～3月)	Lesson 6 The Power of Japanese Pop Culture (第3回定期試験 12月2日)	<p>Can-do リスト【話すこと】Grade 5: 一般によく知られる時事的な話題や物事について、クラスメートの前で資料等を効果的に提示しながら、説明や紹介をすることができる。具体的には、海外の高校生を想定し、自分が興味・関心のある日本文化(伝統文化、ポップカルチャーいずれも可)を紹介することができる。</p> <p>題材: 日本文化・国際交流 / 形式: 報告文 / 内容: 海外で評価され、人気がある日本のアニメやマンガが持つ影響・外交力を再認識する。</p> <p>文法: 強調構文・挿入・seem to do</p>	①②③④ 定期試験
	Lesson 7 The Origins of Halloween (12月2日)	<p>Can-do リスト【読むこと】Grade 5: 平易に書かれた評論文や随筆を読んで、その内容や筆者の考え・意図を理解することができる。具体的には、主題文と支持文(例示・比較・原因・理由・結果など)による構成を意識しながら、本文とは別の関連した英文を読み、理解することができる。</p> <p>題材: 文化・風習 / 形式: 説明文 / 内容: 日本でもポピュラーになってきたハロウィーン。私たちが実はよく知らないハロウィーンの起源や変遷について知る。</p> <p>文法: the+形容詞・関係副詞when・複合関係詞wherever, whenever, whoever</p>	①②③④ 定期試験
	Lesson 3 The Battle of the Pets: Dogs vs. Cats (第4回定期試験 3月)	<p>Can-do リスト【書くこと】Grade 5: 一般的によく知られ賛否が分かれるような話題についての自分の意見や考えを、AREAに基づき80語程度の文章で書くことができる。具体的には、「高校を卒業したら、親元を離れて生活を始めるべきである」という命題について、賛否を明確にした上で自分の考えを書くことができる。そのあと、ディベートを行うことができる。</p>	①②③④ 定期試験

回定期試験 (2月25日) ()	題材:生物・科学 / 形式:説明文 / 内容:人間に最も身近でペットとして愛されているネコとイヌ。互いに異なるこれらの動物は、一体どんな点でペットとしての魅力があるのか 文法: It is ~ whether節・with+O+C《付帯状況》・助動詞+have 過去分詞	①②③④ 定期試験
	Lesson 5 Innovative Products Can-do リスト【読むこと】Grade 5: 一般によく知られる時事的な話題や物事について、クラスメートの前で資料等を効果的に提示しながら、説明や紹介をすることができる。具体的には、主題文と支持文(例示・比較・原因・理由・結果など)による構成を意識しながら、本文とは別の関連した英文を読み、理解することができる。	
	題材:地域問題・創造力 / 形式:説明文 / 内容:アフリカの人々を水運びの重労働から解放した発明、モンゴルの遊牧民の生活の悩みを解決した製品、赤ちゃんの命を救う製品・・・これらの誕生秘話について知る。 文法:S+V+O+C(=現在分詞)・S+V+C(=過去分詞)・S+V(+O)+O(=if/whether)	

家庭学習・授業等について

- これまでと同様、英語をたくさん読み、英語を使ってたくさん活動することが中心の授業です。楽しく活動に取り組んでください。
- 各レッスンや単元の終了時に設定されている最終タスクには特にしっかり取り組んでください。評価の大きな割合を占めます。ルーブリック(評価基準)の条件がクリアできるよう努力して頑張ってください。
- ルーブリックの条件がクリアできたら、Can-do リスト該当 Grade の”Passed!”のマスの色を塗りましょう。Can-do リストで折に触れて、自分ができるようになった項目を確認したり、先に控えている目標を確認しましょう。全員共通の最終目標は Grade7 です。
- 英検に積極的にチャレンジして、目標級の取得を目指しましょう。今年度は準 2 級、卒業までに 2 級を目指しましょう。日常の授業の延長で無理なく受検可能です。せっかくなので、日頃の授業の成果を資格取得という、目に見える形で残しましょう。昨年本校で初めて、3 年生が準 1 級に合格しました。現 3 年生の数名も準 1 級にチャレンジしています。皆さんの中からも目指す人が出てくることを期待しています。
- 週末課題を中心とした課題提出には、しっかり取り組み、しっかり提出しましょう。くれぐれも「やっつけ課題」にならないようにしましょう。何も身につけません。

学年	2年	コース	全コース	単位数	2単位	
科目名	英語表現Ⅱ		担当者			
教科書	Vision Quest English Expression II Standard (啓林館)		副教材	総合英語be(文法参考書)・総合英語be Endeavor Step by Step		
学習到達及び【キャリア教育】の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝えることができる。具体的には以下の言語活動が英語でできる。【自己理解・自己管理能力】【課題対応能力】 ア)与えられた話題について、即興で話すことができる。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。 イ)読み手や目的に応じて、簡潔に書くことができる。 ウ)聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ発表することができる。					
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。 ●外国語表現の能力:話すこと・書くこと 英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。 ●言語や文化についての知識・理解 英語やその運用についての知識を身につけているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。 					
評価方法	定期試験 60% / 日常の学習活動 40% : ①学力テスト・②単元テスト・③小テスト・④授業時の活動参加(発言・ペアorグループワーク・発表等)					
学期	単元名	学習目標・評価規準			評価方法	
前期 (4月～9月)	第1回定期試験(6月2日)	Part 2 Lesson 1 パラグラフを書く① ロボットの有用性	英語のパラグラフが、主題文・支持文・結論文から構成されることを理解する。 また、列挙や順序を表すつなぎ言葉について学ぶ。			①②③④ 定期試験
		Part 2 Lesson 2 パラグラフを書く② 英語を学ぶ意義	英語のパラグラフが、主題文・支持文・結論文から構成されることを理解する。 また、例示や追加を表すつなぎ言葉について学ぶ。			
		Can-do リスト 話すこと Grade4	身近で馴染みのある話題や物事についてのAREAに基づいた簡単なスピーチを、キーワードやメモをたよりに行うことができる。具体的には、2050年頃に甲府昭和高校がどんな風になっているのかについて、自分の考えをまとめて発表したり、その場で質問に答えたりすることができる。			
	第2回定期試験(9月16日)	Activity for Communication 4 Writing a Blog	ある程度の長さのブログ記事を英語で書くことができる。 また、あるブログ記事に対してのコメントや、コメントに対する返事を英語で書くことができる。			①②③④ 定期試験
		Activity for Communication 5 Reading	図表における増減や比率を英語で適切に表現することができる。			
		Can-do リスト 書くこと Grade4	身近で馴染みがあり、賛否を論じやすい話題についての自分の意見や考えを、AREAに基づいて10文程度の文章で書くことができる。具体的には、友人のブログに書かれているちょっとした悩みや相談ごとに対して、アドバイスや意見を書くことができる。			
	Part 3 Lesson 2 ディスカッション	特定のテーマについて、グループで互いの意見を交換することができる。 司会者として、複数の人からの意見を調整しながら、議論を進めることができる。				
	Can-do リスト 話すこと Grade4	身近で馴染みのある話題や物事についてのAREAに基づいた簡単なスピーチを、キーワードやメモをたよりに行うことができる。具体的には、日本人海外留学生の減少に伴い予想される懸念と、その対策について、話し合うことができる。				
後期 (12月～3月)	第3回定期試験(12月2日)	Part 3 Lesson 1 プレゼンテーション	発声にメリハリをつけたり、ジェスチャーやアイコンタクト、提示資料等を効果的に用いて聴衆が聞き取りやすい配慮をしながら発表できる。また、質問にその場で答えることができる。			①②③④ 定期試験
		Part 2 Lesson 3 パラグラフを書く③ 都会と田舎	類似や対比を表すつなぎ言葉を使って2つの事柄を比較しながら、英語のパラグラフを書くことができる。			
		Part 2 Lesson 4 パラグラフを書く④ 深刻な砂漠問題	原因や理由を表すつなぎ言葉を使って、英語のパラグラフを書くことができる。			
		Can-do リスト 話すこと Grade5	一般によく知られる時事的な話題や物事について、クラスメートの前で資料等を効果的に提示しながら、説明や紹介をすることができる。具体的には、海外の高校生を想定し、自分が興味・関心のある日本文化(伝統文化、ポップカルチャーいずれも可)を紹介することができる。			

第4回定期試験 (2月25日)	Part 3 Lesson 3 ディベート	特定のテーマについて、ディベートで自分の意見を述べるができる。また、自分の意見への反論に対して、さらに自分の考えを述べるができる。
	Part 1 Lesson18 犬派？猫派？	2つの事柄を数量や程度を表す語句を用いて比較しながら書くことができる。 ペットなどについて、性質を比較しながら、自分の考えをまとまった長さの英文で書ける。
	Part 1 Lesson13 制服に賛成？	2つの事柄を数量や程度を表す語句を用いて比較しながら書くことができる。 制服などについて、賛否を明らかにして自分の考えをまとまった長さの英文で書ける。
	Can-do リスト 書くこと Grade5	一般的によく知られ賛否が分かれるような話題についての自分の意見や考えを、AREAに基づき80語程度の文章で書くことができる。具体的には、「高校を卒業したら、親元を離れて生活を始めるべきである」という命題について、賛否を明確にした上で自分の考えを書くことができる。そのあと、ディベートを行うことができる。

①②③④
定期試験

家庭学習について

- ・これまでと同様、英語をたくさん読み、英語を使ってたくさん活動することが中心の授業です。楽しく活動に取り組んでください。
- ・各レッスンや単元の終了時に設定されている最終タスクには特にしっかり取り組んでください。評価の大きな割合を占めます。ルーブリック(評価基準)の条件がクリアできるよう努力して頑張ってください。
- ・ルーブリックの条件がクリアできたら、Can-do リスト該当 Grade の”Passed!”のマスの色を塗りましょう。Can-do リストで折に触れて、自分ができるようになった項目を確認したり、先に控えている目標を確認しましょう。全員共通の最終目標は Grade7 です。
- ・英検に積極的にチャレンジして、目標級の取得を目指しましょう。今年度は準2級、卒業までに2級を目指しましょう。日常の授業の延長で無理なく受検可能です。せっかくなので、日頃の授業の成果を資格取得という、目に見える形で残しましょう。昨年本校で初めて、3年生が準1級に合格しました。現3年生の数名も準1級にチャレンジしています。皆さんの中からも目指す人が出てくることを期待しています。
- ・週末課題を中心とした課題提出には、しっかり取り組み、しっかり提出しましょう。くれぐれも「やっつけ課題」にならないようにしましょう。何も身につけません。

小学校児童指導要録（参考様式）

様式1（学籍に関する記録）

区分	学年	1	2	3	4	5	6
学級							
整理番号							

学 籍 の 記 録							
児 童	ふりがな			性 別	入学・編入学等	平成 年 月 日 第 1 学年 入学 第 学年 編入学	
	氏名						
	生年月日	平成 年 月 日生		転入学	平成 年 月 日 第 学年 転入学		
	現住所						
保 護 者	ふりがな			転学・退学等	(平成 年 月 日) 平成 年 月 日		
	氏名						
	現住所			卒業	平成 年 月 日		
入学前の経歴				進学先			
学 校 名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)							
年 度	平成 年度		平成 年度		平成 年度		
区分 / 学年	1		2		3		
校長氏名印							
学級担任者 氏名印							
年 度	平成 年度		平成 年度		平成 年度		
区分 / 学年	4		5		6		
校長氏名印							
学級担任者 氏名印							

児 童 氏 名

行 動 の 記 録															
項 目	学 年	行 動						項 目	学 年	行 動					
		1	2	3	4	5	6			1	2	3	4	5	6
基本的な生活習慣								思いやり・協力							
健康・体力の向上								生命尊重・自然愛護							
自主・自律								勤労・奉仕							
責任感								公正・公平							
創意工夫								公共心・公德心							

総 合 所 見 及 び 指 導 上 参 考 と な る 諸 事 項

第 1 学 年		第 4 学 年	
第 2 学 年		第 5 学 年	
第 3 学 年		第 6 学 年	

出 欠 の 記 録

区分	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考
学年						
1						
2						
3						
4						
5						
6						

小学校及び特別支援学校小学部の指導要録に記載する事項等（抜粋）

II 指導に関する記録

小学校における指導に関する記録については、以下に示す記載することが適当な事項に留意しながら、各教科の学習の記録（観点別学習状況及び評定）、外国語活動の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項並びに出欠の記録について学年ごとに作成する。

特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における指導に関する記録については、小学校における指導に関する記録に記載する事項に加えて、自立活動の記録について学年ごとに作成するほか、入学時の障害の状態について作成する。

特別支援学校（知的障害）小学部における指導に関する記録については、各教科の学習の記録、特別活動の記録、自立活動の記録、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項並びに出欠の記録について学年ごとに作成するほか、入学時の障害の状態について作成する。

特別支援学校小学部に在籍する児童については、個別の指導計画を作成する必要があることから、指導に関する記録を作成するに当たって、個別の指導計画における指導の目標、指導内容等を踏まえた記述となるよう留意する。また、児童の障害の状態等に即して、学校教育法施行規則第130条の規定に基づき各教科の全部若しくは一部について合わせて授業を行った場合又は各教科、道徳、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部若しくは一部について合わせて授業を行った場合並びに特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成21年文部科学省告示第36号）第1章第2節第5の規定（重複障害者等に関する教育課程の取扱い）を適用した場合にあっては、その教育課程や実際の学習状況を考慮し、各教科等を合わせて記録できるようにするなど、必要に応じて様式等を工夫して、その状況を適切に記入する。

特別支援学級に在籍する児童の指導に関する記録については、必要がある場合、特別支援学校小学部の指導要録に準じて作成する。

1 各教科の学習の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における各教科の学習の記録については、観点別学習状況及び評定について記入する。

特別支援学校（知的障害）小学部における各教科の学習の記録については、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示す小学部の各教科の目標、内容に照らし、具体的に定めた指導内容、実現状況等を文章で記述する。

(1) 観点別学習状況

小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における観点別学習状況については、小学校学習指導要領（平成20年文部科学省告示第27号）及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（以下、「小学校学習指導要領等」という。）に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し記入する。その際、「十分満足できる」状況と判断されるものをA、「おおむね満足できる」

状況と判断されるものを B, 「努力を要する」状況と判断されるものを C のように区別して評価を記入する。

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における各教科の評価の観点について，設置者は，小学校学習指導要領等を踏まえ，別紙 5 を参考に設定する。また，各学校において，観点を追加して記入できるようにする。

(2) 評定

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における評定については，第 3 学年以上の各教科の学習の状況について，小学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして，その実現状況を総括的に評価し記入する。

各教科の評定は，小学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして，その実現状況を「十分満足できる」状況と判断されるものを 3, 「おおむね満足できる」状況と判断されるものを 2, 「努力を要する」状況と判断されるものを 1 のように区別して評価を記入する。

評定に当たっては，評定は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり，「(1) 観点別学習状況」において掲げられた観点は，分析的な評価を行うものとして，各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意する。その際，評定の適切な決定方法等については，各学校において定める。

2 外国語活動の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における外国語活動の記録については，評価の観点を記入した上で，それらの観点到照らして，児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等，児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

評価の観点については，設置者は，小学校学習指導要領等に示す外国語活動の目標を踏まえ，別紙 5 を参考に設定する。また，各学校において，観点を追加して記入できるようにする。

3 総合的な学習の時間の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における総合的な学習の時間の記録については，この時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で，それらの観点のうち，児童の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等，児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

評価の観点については，小学校学習指導要領等に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえ，各学校において具体的に定めた目標，内容に基づいて定める。その際，例えば，「よりよく問題を解決する資質や能力」，「学び方やものの考え方」，「主体的，創造的，協同的に取り組む態度」及び「自己の生き方」等と学習指導要領に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえて定めたり，「学習方法に関すること」，「自分自身に関すること」及び「他者や社会とのかかわりに関すること」等の視点に沿って各学校において育てようとする資質や能力等を踏まえて定めたりすることが考えられる。また，教科との関連

- ① 各教科や外国語活動，総合的な学習の時間の学習に関する所見
- ② 特別活動に関する事実及び所見
- ③ 行動に関する所見
- ④ 児童の特徴・特技，学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動，表彰を受けた行為や活動，学力について標準化された検査の結果等指導上参考となる諸事項
- ⑤ 児童の成長の状況にかかわる総合的な所見

記入に際しては，児童の優れている点や長所，進歩の状況などを取り上げることに留意する。ただし，児童の努力を要する点などについても，その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記入する。

また，学級・学年など集団の中での相対的な位置付けに関する情報も，必要に応じ，記入する。

さらに，通級による指導を受けている児童については，通級による指導を受けた学校名，通級による指導の授業時数，指導期間，指導の内容や結果等を記入する。通級による指導の対象となっていない児童生徒で，教育上特別な支援を必要とする場合については，必要に応じ，効果があったと考えられる指導方法や配慮事項を記入する。

特別支援学校小学部においては，交流及び共同学習を実施している児童について，その相手先の学校名や学級名，実施期間，実施した内容や成果等を記入する。

中学校生徒指導要録（参考様式）

様式1（学籍に関する記録）

区分	学年	1	2	3
学 級				
整理番号				

学 籍 の 記 録							
生 徒	ふりがな			性 別	入学・編入学等	平成 年 月 日 第1学年入学	第 学年編入学
	氏 名					平成 年 月 日 第 学年転入学	
	生年月日	平成 年 月 日生		転 入 学	転 入 学		
	現住所						
保 護 者	ふりがな			転学・退学等	転学・退学等	(平成 年 月 日)	
	氏 名					平成 年 月 日	
	現住所			卒 業	卒 業	平成 年 月 日	
入学前の経歴				進 学 先 就 職 先 等	進 学 先 就 職 先 等		
学 校 名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)							
年 度	平成 年度		平成 年度		平成 年度		
区分 / 学年	1		2		3		
校 長 氏 名 印							
学 級 担 任 者 氏 名 印							

様式2 (指導に関する記録)

生徒氏名	学校名	区分	学年	1	2	3
		学級				
		整理番号				

各教科の学習の記録													
I 観点別学習状況													
教科	観 点	学 年	1	2	3	教科	観 点	学 年	1	2	3		
国語	国語への関心・意欲・態度												
	話す・聞く能力												
	書く能力												
	読む能力												
	言語についての知識・理解・技能												
社会	社会的事象への関心・意欲・態度												
	社会的な思考・判断・表現												
	資料活用の技能												
	社会的事象についての知識・理解												
II 評 定													
数学	数学への関心・意欲・態度					学年	教科	国語	社会	数学	理科	音楽	美術
	数学的な見方や考え方					1							
	数学的な技能					2							
	数量や図形などについての知識・理解					3							
理科	自然事象への関心・意欲・態度					学年	教科	保健体育	技術・家庭	外国語			
	科学的な思考・表現					1							
	観察・実験の技能					2							
	自然事象についての知識・理解					3							
総合的な学習の時間の記録													
音楽	音楽への関心・意欲・態度					学年	学 習 活 動	観 点	評 価	1			
	音楽表現の創意工夫												
	音楽表現の技能												
	鑑賞の能力												
美術	美術への関心・意欲・態度					2							
	発想や構想の能力												
	創造的な技能												
保健体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度					3							
	運動や健康・安全についての思考・判断												
	運動の技能												
	運動や健康・安全についての知識・理解												
技術・家庭	生活や技術への関心・意欲・態度												
	生活を工夫し創造する能力												
	生活の技能												
	生活や技術についての知識・理解												
外国語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度												
	外国語表現の能力												
	外国語理解の能力												
特別活動の記録													
						内 容	観 点	学 年	1	2	3		
						学級活動							
						生徒会活動							
						学校行事							

生徒氏名

行 動 の 記 録									
項 目	学 年	1	2	3	項 目	学 年	1	2	3
基本的な生活習慣					思いやり・協力				
健康・体力の向上					生命尊重・自然愛護				
自主・自律					勤労・奉仕				
責任感					公正・公平				
創意工夫					公共心・公德心				

総合所見及び指導上参考となる諸事項

第 1 学 年	
第 2 学 年	
第 3 学 年	

出 欠 の 記 録

区分	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考
1						
2						
3						

中学校生徒指導要録に記載する事項等（抜粋）

○ 指導に関する記録

〔各教科の学習の記録〕

観点別学習状況及び評定について記入する。

1 観点別学習状況

中学校学習指導要領（平成10年文部省告示第176号）に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し、A、B、Cの記号により記入する。この場合、「十分満足できると判断されるもの」をA、「おおむね満足できると判断されるもの」をB、「努力を要すると判断されるもの」をCとする。

また、特に必要があれば、観点を追加して記入する。

各教科の評価の観点及びその趣旨並びにそれらを学年別、分野別に示したものは別添2-1のとおりである。各学校においては、評価が効果的に行われるようにするため、これらを参考として、評価規準の工夫・改善を図ることが望まれる。

選択教科については、生徒選択を基本とし、生徒の特性等に応じた多様な学習活動を展開するという趣旨が生かせるよう考慮して、学校が観点を設定し、記入する。

2 評定

各学年における各教科の学習の状況について、必修教科については、各教科別に中学校学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況を、選択教科については、この教科の特性を考慮して設定された目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し、記入する。

必修教科の評定は、5段階で表し、5段階の表示は、5、4、3、2、1とする。その表示は、中学校学習指導要領に示す目標に照らして、「十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの」を5、「十分満足できると判断されるもの」を4、「おおむね満足できると判断されるもの」を3、「努力を要すると判断されるもの」を2、「一層努力を要すると判断されるもの」を1とする。

選択教科の評定は、3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとする。その表示は、それぞれ教科の特性を考慮して設定された目標に照らして、「十分満足できると判断されるもの」をA、「おおむね満足できると判断されるもの」をB、「努力を要すると判断されるもの」をCとする。

評定に当たっては、評定は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、「1観点別学習状況」において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意することが望まれる。その際、観点別学習状況の評価を、どのように評定に総括するか具体的な方法等については、各学校において工夫することが望まれる。

〔総合的な学習の時間の記録〕

総合的な学習の時間については、この時間に行った学習活動及び指導の目標や内容に基

づいて定めた評価の観点を記載した上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入するなど、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

評価の観点については、中学校学習指導要領に示された総合的な学習の時間の二つのねらい（〈1〉自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること、〈2〉学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること）などを踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて定める。（例えば、上記の二つのねらいを踏まえ、「課題設定の能力」「問題解決の能力」「学び方、ものの考え方」「学習への主体的、創造的な態度」「自己の生き方」などと定めたり、また、教科との関連を明確にして、「学習活動への関心・意欲・態度」「総合的な思考・判断」「学習活動にかかわる技能・表現」「知識を応用し総合する能力」などと定めたり、さらに、各学校の定める目標・内容に基づき、「コミュニケーション能力」「情報活用能力」などと定めたりすることが考えられる。）

〔特別活動の記録〕

特別活動における生徒の活動について、各内容ごとにその趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合には、○印を記入する。

各内容及びその趣旨は、別添2-2のとおりである。

〔行動の記録〕

各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、その他学校生活全体にわたって認められる生徒の行動について、各項目ごとにその趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合には、○印を記入する。また、特に必要があれば、項目を追加して記入する。

各項目及びその趣旨は、別添2-3のとおりである。

〔総合所見及び指導上参考となる諸事項〕

生徒の成長の状況を総合的にとらえるため、以下のような事項などを記入する。

1. 各教科や総合的な学習の時間の学習に関する所見
2. 特別活動に関する事実及び所見
3. 行動に関する所見
4. 進路指導に関する事項
5. 生徒の特徴・特技、学校内外における奉仕活動、表彰を受けた行為や活動、知能、学力等について標準化された検査の結果など指導上参考となる諸事項
6. 生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見

記入に際しては、生徒の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることが基本となるよう留意することが望まれる。ただし、生徒の努力を要する点などについても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記入する。

また、学級・学年など集団の中での相対的な位置付けに関する情報も、必要に応じ、記入する。

なお、通級による指導を受けている生徒については、通級による指導を受ける学校名、通級による指導の授業時数、指導期間、指導の内容や結果等を記入する。

高等学校（全日制の課程・定時制の課程）生徒指導要録（参考様式）

様式1（学籍に関する記録）

区分	学年	1	2	3	4
ホームルーム					
整理番号					

学 籍 の 記 録							
生 徒	ふりがな			性 別	入学・編入学	平成 年 月 日	第1学年 入学
	氏 名					第 学年編入学	
	生年月日	平成 年 月 日	日生		転 入 学	平成 年 月 日	
	現住所			転学・退学	平成 年 月 日		
保 護 者	ふりがな			留 学 等	平成 年 月 日	～平成 年 月 日	
	氏 名				卒 業	平成 年 月 日	
	現住所						
入学前の経歴		平成 年	中学校卒業		進 学 先 就 職 先 等		
学 校 名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)							
課程名・学科名							
年 度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度		
区分 / 学年	1	2	3	4			
校 長 氏 名 印							
ホ ー ム ル ー ム 担 任 者 氏 名 印							

(様式1裏面)

各教科・科目等の修得単位数の記録

各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	教科	科目	修得単位数 の計	
	国 語	国 語	国語総合	
			略	
			〃	
	地 理 歴 史	地 理 歴 史	〃	
			〃	
			〃	
	公 民	公 民	〃	
			〃	
			〃	
	数 学	数 学	〃	
			〃	
			〃	
	理 科	理 科	〃	
			〃	
			〃	
	保 体 健 育	保 体 健 育	〃	
			〃	
	芸 術	芸 術	〃	
			〃	
〃				
外 国 語	外 国 語	〃		
		〃		

主 と し て 専 門 学 科 に	教科	科目	修得単位数 の計	
	家 庭 情 報	家 庭 情 報	〃	
			〃	
			〃	
			〃	
			〃	
			〃	
	学 校 設 定 教 科	学 校 設 定 教 科	〃	
			〃	
			〃	
			〃	
			〃	
			〃	
	農 業 工 業 商 業 水 産 家 庭 看 護	農 業 工 業 商 業 水 産 家 庭 看 護	〃	
			〃	
			〃	
			〃	
			〃	
			〃	
			〃	
〃				
〃				
〃				

お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	教科	科目	修得単位数 の計			
	お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	〃			
			〃			
			福 祉	〃		
			理 数	〃		
			体 育	〃		
			音 楽	〃		
			美 術	〃		
			英 語	〃		
			学 校 設 定 教 科	学 校 設 定 教 科	〃	
					〃	
					〃	
					〃	
					〃	
					〃	
	総合的な学習 の時間					
	留学					

生徒氏名

総合的な学習の時間の記録

学 習 活 動	
評 価	

特別活動の記録

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年

総合所見及び指導上参考となる諸事項

第 1 学 年	
第 2 学 年	
第 3 学 年	
第 4 学 年	

出 欠 の 記 録

区分 学年	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	留学中の 授業日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考
1							
2							
3							
4							

高等学校生徒指導要録に記載する事項等（抜粋）

○ 指導に関する記録

単位制による課程の場合においては、各学校における単位制による課程の特色に相応した指導要録となるよう、例えば、各教科・科目等の学習の記録を、学期ごとに区分して記述するなど工夫する。

1 各教科・科目等の学習の記録

(1) 評定

ア 各教科・科目の評定は、各教科・科目の学習についてそれぞれ5段階で表し、5段階の表示は、5, 4, 3, 2, 1とする。その表示は、高等学校学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき、学校が地域や生徒の実態に即して設定した当該教科・科目の目標や内容に照らし、その実現状況を総括的に評価して、「十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの」を5、「十分満足できると判断されるもの」を4、「おおむね満足できると判断されるもの」を3、「努力を要すると判断されるもの」を2、「努力を要すると判断されるもののうち、特に低い程度のもの」を1とする。

イ 評定に当たっては、ペーパーテスト等による知識や技能のみの評価など一部の観点に偏した評定が行われることのないように、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の四つの観点による評価を十分踏まえながら評定を行っていくとともに、5段階の各段階の評定が個々の教師の主観に流れて客観性や信頼性を欠くことのないよう学校として留意する。その際、別添3に各教科の評価の観点及びその趣旨を示しているので、この観点を十分踏まえながらそれぞれの科目のねらいや特性を勘案して具体的な評価規準を設定するなど評価の在り方の工夫・改善を図ることが望まれる。

ウ 学校設定教科に関する科目は、評定及び修得単位数を記入するが、当該教科・科目の目標や内容等から数値的な評価になじまない科目については、評定は行わず、学習の状況や成果などを踏まえて、総合所見及び指導上参考となる諸事項に所見等を記述するなど、評価の在り方等について工夫することが望まれる。

エ 定時制又は通信制の課程に在学している生徒に対して、高等学校学習指導要領第1章第7款の4の規定により、大学入学資格検定合格科目を高等学校の各教科・科目の単位を修得したものとみなした場合は、修得単位数のみを記入する。また、高等学校学習指導要領第1章第7款の5の規定により、別科において修得した科目を高等学校の各教科・科目の単位を修得したものとみなした場合も、修得単位数のみを記入する。

(2) 修得単位数

各教科・科目等について、修得を認定した単位数を記入する。評定が1のときは、単位

の修得を認めない取扱いとする。

なお、単位制による課程の場合においては、過去に在学した高等学校において修得した教科・科目等及びその修得単位数等を記入する。

(3) 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間における学習活動に対して、修得を認定した単位数を記入する。

(4) 留学

留学した生徒の外国の学校における学習の成果をもとに、校長が修得を認定した単位数を記入する。この場合、外国のカリキュラムを逐一、我が国の教科・科目と対比し、これらに置き換えて評価する必要はない。なお、外国の高等学校の発行する成績や在籍、科目履修に関する証明書又はその写しを添付する。

(5) その他

専門教育に関する各教科・科目の履修による必履修教科・科目の代替、学校間連携や学校外の学修等についての単位認定を行った場合など、履修上の特記事項等について記入する。

2 総合的な学習の時間の記録

(1) 学習活動

総合的な学習の時間において行った学習活動を記入する。

(2) 評価

各学校が定めた総合的な学習の時間の目標、内容に基づいて各学校が設定した評価の観点を踏まえて、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入するなど、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

観点については、高等学校学習指導要領第1章第4款の2に示された総合的な学習の時間のねらいなどを踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づき定める。

3 特別活動の記録

特別活動における生徒の活動の状況について、主な事実及び所見を記入する。その際、所見については、生徒の長所を取り上げることが基本となるよう留意する。

4 総合所見及び指導上参考となる諸事項

生徒の成長の状況を総合的にとらえるため、以下のような事項などを記入する。

1. 各教科・科目や総合的な学習の時間の学習に関する所見
2. 行動に関する所見
3. 進路指導に関する事項
4. 取得資格

5. 生徒が就職している場合の事業所

6. 生徒の特徴・特技，部活動，学校内外におけるボランティア活動，表彰を受けた行為や活動，標準検査に関する記録など指導上参考となる諸事項

7. 生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見

記入に際しては，生徒の優れている点や長所，進歩の状況などを取り上げることが基本となるよう留意することが望まれる。ただし，生徒の努力を要する点などについても，その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記入する。